

月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.12.18 No. 4894

全員の原職復帰へ決意新た!

総武支部第12回定期大会(12/8)

総武支部は、一月八日、蘇我・勤労プラザにおいて、第一二回定期大会を開催した。

総武支部は、全員が「強制配転者」で構成する支部という特殊性の中で、組合員が運転職場に戻り、組合員数が減ればその分運動が前進したことになる。

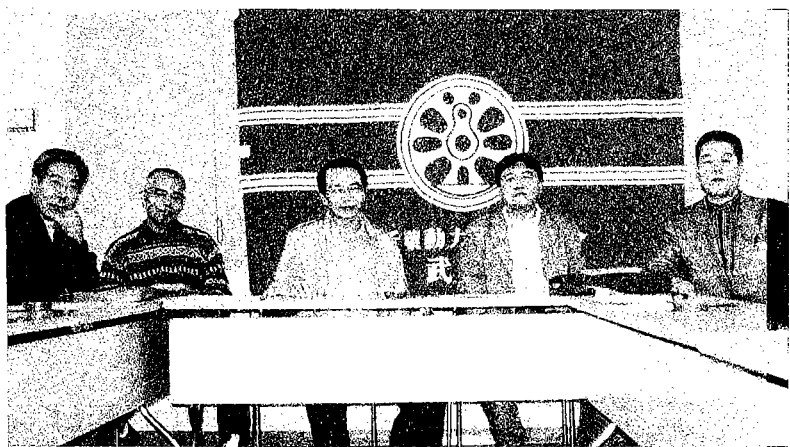
今大会でも、大塚明君(木更津支部へ)、関道利君(津田沼支部へ)が総武支部から移ったことで組合員数が減ることになったが、その分あくまでも強制配転者の原職復帰、正念場の国鉄闘争勝利に向けて決意を新たにしました。

大会は、本部から布施副委員長、田中書記長が出席する中、進められた。

吉野支部長は、この一年間の組合員の奮闘を確認するとともに、闘う新たな労働運動の構築に向けて総武支部が先頭で頑張ろうと檄を発し、とくに営業職場での闘いの重要性を訴えた。活発な討論の後、岡安書記長のまとめで大会は成功裡に終了した。

【決定した五つの方針】

- ①五・二八反動判決を弾劾し、解雇撤回闘争の勝利をかちとろう。
- ②強制配転者の原職復帰、JR体制打倒。
- ③新安保ガイドライン・有事立法粉碎、新たな反戦闘争に立ち上がろう。
- ④組織強化拡大に総決起しよう。
- ⑤支部体制の強化、営業職場の改善に全力で決起しよう。



役職	氏名	職名
支部長	吉野幸成	営・指
副 "	石井謙次	営・主
書記長	岡安正人	営・指
副監査	今田忍	営・指

木更津地労委

小島元支部長が証言 証人調べ終了し結審

一月十一日、千葉地労委において、「木更津支部脱退強要事件」の第一〇回審問が行なわれ、組合側証人・小島元支部長に対する会社側反対尋問が行なわれた。

反対尋問で会社側は、八八年四月に木更津から五名が配転されたが、三〇数名の組合員の内五名は多数ではないのではないかなどとこじつけてきたが、小島元支部長から、三役の内二名が配転されたことは重大なことであることを明らかにした。本件の脱退強要に関しては、保田君が小島元支部長に相談した内容や東労組の木更津での活動について尋問してきたが、こ

れに対して小島元支部長からは、保田君からの具体的な相談内容や職場集会や組合のピラも置いていない東労組木更津分会の実態がより具体的に証言された。また、事故などが増えていることについても、JRが今年運輸省から指導を受けたことなどを指摘するなど、本件の不当労働行為性をより鮮明にして証言を終了し、結審となった。

本人の切実な要求を組合からの脱退を条件にするという会社の姿勢を糾弾し、JR-JR総連結託体制を打倒するために、本件の勝利命令獲得に向け、職場での闘いをさらに強化しよう。

不当家宅搜索国賠公判(12/14)

- 布施副委員長が不当搜索を証言 -

十二月十四日、千葉地裁において、「不当家宅搜索国家賠償請求公判」が行なわれ、組合側証人として布施副委員長に対する主尋問が行なわれた。

まず、七九年三月の結成から今日まで行なってきた勤労千葉としての主な闘いの経過及び日常的な組合活動について証言し、続いて、九二年一〇月に行なわれた家宅搜索での千葉県警の不当な対応などについて明らかにした。

家宅搜索では、約四〇の私服警官が動力車会館に押し掛けて搜索を強行しようとしたことに対して、搜索令状の提示と責任者の氏名などを問いただしている段階から他の搜索員が勤労千葉の執行委員に対して「検挙、

検挙」などと叫んで掴み掛かり引きずり込もうとし、それを布施副委員長らが必死になつて引き戻したことを明らかにした。

また、捜査開始後、東日本本社との団交のため動力車会館を出ようとしたところ、令状の提示もなしに不当な身体搜索や持ち物の搜索が行なわれ、さらに、体の前に数字を書いた「カード」を差し出して写真撮影を行なうなど、全く不法・不当な搜索を強行し、そのために団交の時間に遅れるなど組合業務に甚大な支障をきたしたことを明らかにした。

次回公判は、三月一五日、布施副委員長に対する国及び千葉県の反対尋問が行なわれる。